

傘寿記念

辻元大雲回顧書展



一歩前へ



養神和気



春の水
春の水山なき國を流れけり
(与謝蕪村句)

会期 令和5年

3月25日(土)～4月16日(日)
9時00分～17時00分

■ギャラリートーク／4月2日(日)・8日(土)14:00～
■ワークショップ／3月26日(日)11:30～、13:30～

会場

袖ヶ浦市郷土博物館

〒299-0255 袖ヶ浦市下新田1133(袖ヶ浦公園内)

TEL 0438-63-0811

E-Mail sode65@city.sodegaura.chiba.jp

入館無料

休館／月曜日

※入館の際はマスク着用で
ご覧頂きますようお願い
いたします。

辻元 大雲

兵庫県神戸市に生まれ、愛知県を経て、中学生時代から千葉市へ。昭和50年頃から袖ヶ浦市に在住する。

千葉県立千葉高等学校で書道部顧問であった種谷扇舟先生との出会いが書の道へと志す契機となる。東京学芸大学書道科進学を契機に本格的に書を学び、卒業後は高等学校書道教師として36年間、数多くの俊秀の育成に寄与する。教師としての公務の傍ら、毎日書道展、書道芸術院展、千葉県展などの公募展活動に励み、書作家としての位置も確立していった。

作品制作のモットーは、師種谷扇舟の「本物に学べ」「古典に立脚した確固たる信念に基づく書を」を精神的な柱とし、着実な技法、更に時代に即した新しい現代感覚を発揮した書の世界を目指している。近現代の詩歌を素材とする近代詩文書（漢字かな交じり書）を制作の柱とし、漢字作品など多彩な制作スタイルを発揮する。



一茶句

悠然として山を見る蛙かな（小林一茶句）

松尾芭蕉四句

袖ヶ浦市郷土博物館蔵

梅が香にのつと日の出る山路哉
五月雨を集めて早し最上川
物言へば唇寒し秋の暮
旅に病んで夢は枯野をかけ廻る

方圓可施



略歴

一九四三年 兵庫県神戸市生まれ
一九六二年 種谷扇舟先生に師事する
一九六六年 東京学芸大学学芸学部特別教科教員養成課程書道科卒業
一九七八年 第二十九回毎日書道展近代詩文書部準大賞
二〇〇九年 第二十二回毎日書道展彰芸芸術部門
二〇一七年 第六十九回毎日書道展文部科学大臣賞
二〇一九年 千葉県功労者知事表彰芸術文化の部

現在の書道関係役職

（公社）全日本書道連盟副理事長・事務局長
（一財）毎日書道会常任顧問
毎日書道展近代詩文書部審査員
（公財）書道芸術院顧問・書道芸術院展審査員・常任総務
日本詩文書作家協会会長
日中文化交流協会常任委員
千葉県美術会顧問
千葉県書道協会顧問
白扇書道会相談役
君津地方書道協会顧問
袖ヶ浦市書道連盟会長
大雲書道会主宰

